

令和元年度 学校関係者評価報告書

阿南市立見能林小学校

1 実施日時 令和2年3月4日(水) 16:00~17:00

2 場 所 見能林小学校 校長室

3 実施者 学校評議員 増田 英俊 氏
奥田 文子 氏
稲村 健一 氏
待田 健太郎 氏
橋本 聡 氏

4 評価資料

(1) 本年度の教育活動の成果と課題について説明(校長より)

- 児童、保護者、教職員について
- 本年度の児童の活躍の様子について
 - ・読書感想文や感想画、絵画など全国コンクールでの受賞
 - ・人権標語、ポスターなどの県下コンクールでの受賞
 - ・県陸上記録会、水泳能力検定会等での児童の活躍
- 学校施設・設備の改修や課題について

(2) 自己評価の集計結果と分析(教頭より)

5 評価結果(評議員会での意見、感想)

- 「楽しい学校生活」に関する内容は児童、保護者、教職員ともに高ポイントになっている。児童の実態に沿った充実感を高める取組の成果だと感じられる。
- 「読書」に関するポイントが低くなっている。現代はテレビやインターネット、ゲームなど、メディアを視聴する時間が多くなっている。モニター画面を通じて活字を読むことも読書ととらえると読書時間はあまり減っていないのかもしれない。市立図書館の利用を積極的に推進していくことも大切である。学校では朝の活動時の読書を取りやめ、授業に振り替えている。そのため、学校での読書への取組は少なくなっている。来年度は朝の活動の時間に読書の時間を設ける予定である。
- 今やいじめのメインフィールドは SNS やインターネット上となっている。中学校になってからは遅いという感がある。最早、小学校低学年から指導していく必要がある。
- 現在、臨時休校中であるが、休校後に不登校が増えないか、心配している。学校ホームページ等で臨時休校中の家庭での過ごし方等について発信していくことが必要である。インターネット等の動画を活用して学習したり、体力づくりに取り組んだりすることも可能である。
- 令和2年度、3年度と文科省から人権教育研究大会が本校に指定されている。これまでも人権教育については見小教育の重点項目の一つとして取り組んできたが、この機会に再点検し、より一層推進していくことが重要である。
- 「見小っ子」の伝統は、「あいさつの素晴らしさ」である。交通指導をしてきている地安会の方も感心されていた。長年それが保たれているということが素晴らしい。
- 臨時休校中の学習の取り戻しについては、授業時数の取り戻しは難しいが授業内容の取り戻しは可能な限り取り組む予定である。
- 児童の登下校等の様子を見てみると、どの子も落ち着いて行動できている。見小の良き伝統が引き継がれていることにうれしさと頼もしさを感じる。児童の様子はもとより、保護者の様子も見ていきたいので、授業参観の案内もお願いしたい。
- 見小の子どもたちはおちついているがやや控えめなところがある。良さでもあり、弱点でもある。子どもの実態に即して指導・支援に取り組んでほしい。
- 長年の懸案事項であった「校内放送設備」が改善され、中庭や廊下等を含め学校全体に放送がよく聞こえるようになった。Jアラートと連動でき、災害時も放送設備が使用可能になった。
- 体育館の電気設備が不調である。電灯の照度が低く、運動に支障がでている。また、今年になってブレーカーが落ち、夜間、使用中に電灯が消えてしまったことが数回あった。市教委に早期の修繕をお願いしている。